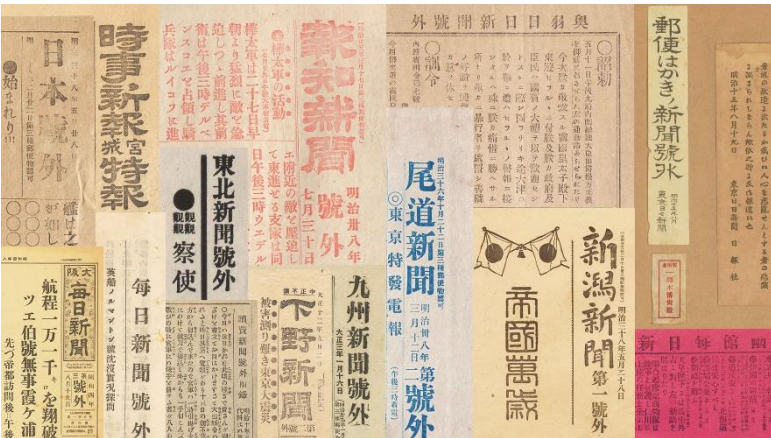


時代の「瞬間」を伝える



▲多様な形態で発行された号外

号外
コレクション
公開サイト

<https://iiif.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/repo/s/gogai/page/home>





都新聞 明治37年2月9日 号外



記事タイトルをキーワードで検索できるほか、年月日から探すこともできます。既に公開中の「東洋自由新聞」「改進新聞」(宮武外骨蒐集資料)と同じカレンダーから探すこともでき、使いやすいとSNSでも評判です。前号でお伝えした館内公開データをさらに整備し、今回のオンライン公開へと至りました。

▼紙面を拡大して閲覧可能
▼好評なカレンダー検索

明治新聞雑誌文庫所蔵資料 カレンダー検索

1905年 3月

26日	27日	28日	3月 1日
報知毎日新聞 明治38年3月26日	報知毎日新聞 明治38年3月27日	報知毎日新聞 明治38年3月28日	報知毎日新聞 明治38年3月31日
5日	6日	7日	8日
報知毎日新聞 明治38年3月5日	報知毎日新聞 明治38年3月6日	報知毎日新聞 明治38年3月7日	報知毎日新聞 明治38年3月8日
12日	13日	14日	15日
報知毎日新聞 明治38年3月12日	報知毎日新聞 明治38年3月13日	報知毎日新聞 明治38年3月14日	報知毎日新聞 明治38年3月15日

報知新聞 明治38年3月8日 号外

1
出版社 報知社
出版地 東京

オンラインで号外コレクションを公開

二〇二二年三月三〇日、明治新聞雑誌文庫所蔵号外コレクションがオンライン公開されました。約二、〇〇〇点の明治〜昭和戦前期の新聞号外が、いつでもどこからでもご覧いただけます。この規模での新聞号外の画像公開はこれまでにない、公開初日から大きな反響をいただいています。

号外は、新聞本紙と同じく劣化しやすい用紙に印刷され、サイズが小さいものも多く定型ではありません。保存・閲覧が難しい資料のため、当初は代替

資料作成という意味合いでデジタル化を進めました。しかし、コロナ禍で来館利用という選択肢が減り、可能な部分をオンラインで公開したいと、東京大学学術資産アーカイブ化推進室へ相談したところ、推進室が運用するサーバでのオンライン公開が可能となりました。

オンライン公開によりアクセスのしやすさなど利便性が向上し、画像を拡大できることで小さな紙面の可読性も向上しています。

大きな事件に対して当時の人々が受け取った衝撃、その「瞬間」を感じられるツールとして、号外という報道の歴史資料を多くの方にご利用いただければ幸いです。

号外のデジタル化は寄付金によるご支援で可能となりました。遠隔サービスのニーズにいち早く応えられる閲覧環境を作ることができ、ご支援いただいた関係者の皆様に深く感謝申し上げます。(二面もご覧ください)

明治新聞雑誌文庫 ニュースレター

第十號
令和四年四月二十八日(木)
編集・発行
東京大学大学院法政学政治学研究所
附属近代日本法政史料センター
明治新聞雑誌文庫
〒113-0033
東京都文京区本郷七三二
電話 〇三五八四二二三七一

年二回発行

URL
<http://www.meiji.j.u-tokyo.ac.jp/>
Mail
meiji.j@gs.mail.u-tokyo.ac.jp
Twitter
@UTokyo_LMeiji





外骨が遺した絵葉書帖を収納

宮武外骨が編纂した「絵葉書類別大集成」を改修後の新しい書架に合わせて、中性紙保存箱に収納しました。



この資料は、外骨がユニークな視点で選んだ絵葉書が主題ごとに貼り込まれたものですが、アルバムからの絵葉書の剥落や外装の劣化など、懸念の多い資料でした。

今回新規に専用の中性紙保存箱を作成し、収納することができました。中性紙保存箱には一定の調湿効果があり、埃やカビからの保護となります。写真版の絵葉書には銀鏡化という劣化が判明し、保護となる間紙の挟み込みを行いました。アルバムには「相對語表」「鶴の目鷹の目」「猫」といった様々な主題の題箋が貼られており、一点ずつ外装が異なります。コレクションとして背表紙を一覧できる収納箱も作成しました。

◀個性が溢れる主題で装丁されたアルバム



▶間紙による写真保護



(一面より続く)

号外コレクションには、全国紙から地方紙まで新聞各社が競って号外を発行した日露戦争期のもを中心に、宮武外骨が蒐集した明治初期発行のものや、日清戦争、明治天皇崩御、関東大震災の際に発行されたものなどが含まれています。日露戦争の頃には購読者獲得のため、新聞社による空前の号外発行競争が東京大阪だけでなく全国的に繰り広げられました。

「絵葉書類別大集成」は、外骨の個性あふれる大人気の資料です。民俗学や風俗史の研究資料としてのニーズも高く、デジタル化もされています。明治文庫館内端末でCD-ROMを閲覧できます。

今回の収納箱は寄付金により製作いたしました。皆様のご支援に心より御礼申し上げます。

国文学研究資料館に協力

オンライン資料がデジタル研究で活躍

国文学研究資料館が提供する「明治期出版広告データベース」で、オンライン公開中の「宮武外骨蒐集資料」より『改進黨新聞』『東洋自由新聞』が活用されました。新聞、雑誌類に掲載された明治二十三年までの出版物広告の検索ができるデータベースで、広告の画像も見られます。



http://basel.nijl.ac.jp/~meiji_pa/
明治期出版広告データベース

新聞資料の補修、撮影進む

新規所蔵資料 上野日々新聞

今回寄付金を活用し、『上野日々新聞』、『同盟改進黨新聞』の補修とマイクロフィルム撮影を行いました。資料の皺を伸ばし、良い紙面状態で

撮影したあと、保存箱に収納していきます。



左：同盟改進黨新聞
右：新規資料の上野日々新聞

『上野日々新聞(こうざけにちにしんぶん)』は明治文庫新規資料となる新聞で改修後の書架点検の際、見つかりました。

『同盟改進黨新聞』は若き黒岩涙香が手がけた新聞で、日刊新聞として刊行されましたが、四十五号で廃刊という短命に終わりました。題字は勝海舟の揮毫によると、宮武外骨が『公私月報』二十五号で述べています。

いずれも所蔵が稀少な新聞で、当館が国内での最古号を所蔵しています。共に所蔵年月日がまとまっており、通読調査しやすい資料です。

特別展で資料をパネル展示

「写真の中の嗚外 人生を刻む顔」展

(文京区立森鷗外記念館)

特別展「写真の中の嗚外 人生を刻む顔」展(会期二〇二二年一月九日)四月十七日(日)で『グラフィック』The graphic』に掲載された、観潮楼に暮らす森鷗外夫人の森志げ、長女森茉莉の写真がパネル展示されました。